

パブリックフォルダを SharePoint に 移行する場合のベストプラクティス

著者:

Sergey Goncharenko,
Quest Software, Inc



技術概要

© Copyright Quest[®] Software, Inc. 2006. All rights reserved.

このガイドには著作権で保護されている機密情報が含まれています。このガイドで説明されているソフトウェアは、ソフトウェアライセンスまたは守秘義務契約の下に提供されています。このソフトウェアは、適用される契約の条項に準拠している場合のみ使用またはコピーできます。このマニュアルの一部または全部を複製または転送することは、購入者による個人使用以外の目的では、Quest Software, Inc.の書面による許可がない場合、複写および記録を含む電子的または機械的ないかなる手段でも禁じられています。

保証

この文書に含まれている情報は、予告なく変更されることがあります。クエスト・ソフトウェアは、この情報に関するいかなる保証もいたしません。クエスト・ソフトウェアは、商品性および特定目的への適合性に関する黙示的な保証については一切免責されるものとします。クエスト・ソフトウェアは、この情報の提供または使用に起因して申し立てられた、直接的、間接的、付随的、または結果的ないかなる損害についても責任を負わないものとします。

商標

このガイドで使用されているすべての商標および登録商標は、その所有者の財産です。

ワールドワイド本社

5 Polaris Way

Aliso Viejo, CA 92656

www.quest.com

電子メール: info@quest.com

米国およびカナダ: 949.754.8000

各地域および海外の所在地情報については、本社サイトを参照してください。

最終更新日—2006年10月23日

目次

1. はじめに.....	1
1.1 移行チーム.....	2
2. 移行範囲の分析.....	3
2.1 事前分析.....	3
2.2 移行範囲の定義.....	5
2.3 パイロット移行用のフォルダの選択.....	5
3. 移行戦略の計画.....	6
3.1 組織内のパブリックフォルダトポロジの分析.....	6
3.2 必要なアクセス許可が設定されていることの確認.....	9
3.3 移行に関する問題.....	9
3.4 データの移行方法の表.....	11
4. 環境の準備.....	12
4.1 ハードウェアとソフトウェアの準備.....	12
4.2 パイロット環境の準備.....	13
5. 移行の実行.....	14
5.1 手順 1—移行ジョブの作成.....	14
5.2 手順 2—移行結果の分析.....	14
5.3 手順 3—特別なパブリックフォルダの機能の移行.....	14
6. 移行後の作業.....	16
6.1 パブリックフォルダのリダイレクト.....	16
6.2 OUTLOOK WEB ACCESS.....	16
6.3 パブリックフォルダの使用停止.....	16
6.4 SHAREPOINT の管理.....	16
結論.....	17
筆者について.....	18
QUEST SOFTWARE, INC. について.....	19
クエスト・ソフトウェア (QUEST SOFTWARE, INC.) へのお問合せ.....	19
クエストサポートへのお問合せ.....	19

1. はじめに

コラボレーションテクノロジーは長い道のりを進んできました。電話と電話会議を使用する初期の時期から、オフィス周辺で転送した荷物を確認する時期を経て、今日の主に電子メールを中心とした、広範囲の分散型承認プロセスに至っています。1990年代には、より高度なドキュメント管理システムと、より成熟したバージョンの Lotus Notes によって、最初の実用的なコラボレーションテクノロジーが実現されました。そして SharePoint が出現し、とりわけ SharePoint 2007 がリリースされたことで、コラボレーションがさらに次の段階に進んだことがわかります。インストールを非常に簡単なものにして、テクノロジーを入手するコストを削減し、成長のための余地を十分に確保することで、SharePoint は次のコラボレーションプラットフォームとしての位置を占めています。新しいテクノロジーを使用する場合は常にそうであるように、かつては強力で必要だと見なされていた以前のテクノロジーは旧式だと判断され、データは最も円滑に流れる経路をたどるようになります。

短期間であったものの、非常に高い確率で採用された時期があったテクノロジーがパブリックフォルダでした。パブリックフォルダによって、Microsoft Exchange を使用する誰とでもドキュメント、イベント、連絡先、電子メールのスレッドを共有できます。時間がたつと、パブリックフォルダのデータは非常に大きなサイズまで拡大することがあります。今では新しい選択肢が存在します。Microsoft 社は、新しいコラボレーションプロジェクトには SharePoint を使用することを推奨しており、再び「データの移行」という大きな問題が浮上してきています。

Quest 社は移行ビジネスのリーダー企業であり、移行の管理と展開を適切に実施する方法について、これまでの道のりで多くを学んできました。Quest 社は、企業が NT4 に移行したとき、Active Directory (AD) を導入したとき、Exchange 2000 から 2003 に移った時期にこの分野で経験を積み、今ではパブリックフォルダから SharePoint への移行に取り組んでいます。Quest 社は世界の大企業の多くを顧客とし、移行作業を実施してきました。数百万のアカウントとテラバイト (TB) 単位のデータを完璧に整理することは正直なところ困難でしたが、その経験によってユニークな視点を持つようになりました。そして、これらの移行作業の間に多くのことを学び、それらの知識をパブリックフォルダの分野に生かすことができます。

このドキュメントでは、そうした過去の経験から得られた知識をもとに、新製品の Quest® Public Folder Migrator for SharePoint について説明します。

まず、「移行」とは、プロジェクトについての表現であり、テクノロジーについてのものではありません。つまり、「移行」には移行前の作業（評価）と移行後の作業（管理）が存在し、製品にはそれぞれの作業のために、Quest MessageStats™製品と Quest® Site Administrator for SharePoint 製品が組み込まれています。

しかし当然ながら、これらのプロジェクトの中心にあるのはテクノロジーであり、このホワイトペーパーではテクノロジーに関する側面に焦点を合わせます。

Public Folder Migrator では、パブリックフォルダの構造とコンテンツを SharePoint Services や Portal Server のサイトに移行することができます。ウィザードを利用すると、とても簡単に移行タスクを作成し、移行タスクのスケジュールを変更することができます。

これら 2 つのテクノロジー (Exchange Server パブリックフォルダと SharePoint) の間に多くの違いが存在するため、いくらかの問題が発生する可能性が確実にあります。このドキュメントでは、移行を準備する助けとなる、移行に関する特定の問題について説明します。このドキュメントで説明する推奨事項に従うことで、パブリックフォルダの移行を効率的に行い、組織内のユーザに与える影響をほとんど、またはまったくなくすることができます。

このドキュメントは Exchange 管理者と SharePoint 管理者の両方を対象としています。また、移行プロセスでは複数のパブリックフォルダ所有者による作業がいくらか必要になる可能性が高いため、SQL 管理者とパブリックフォルダ所有者にとっても有益です。

1.1 移行チーム

パブリックフォルダを SharePoint へ移行するには、さまざまな専門家が部署をまたがって協力する必要があります。Exchange 環境でのレポートの収集、適切な変更の適用、今後の SharePoint の構造と容量の計画、アイテムが適切なリストやドキュメントライブラリに正しく移行されたことの確認、トップレベルサイトとコレクションの作成、SharePoint データベースの保守と構成などの作業を、1 人の管理者が実行できるとは考えられません。このため、移行プロジェクトの初期にチームを組織し、パブリックフォルダの移行を計画して実行する間、意思伝達を図りコラボレーションを行うことをお勧めします。この場合も、全体として成功するかどうかは、プロジェクトの管理面に左右されます。

以下に、移行による影響を受けるユーザの各グループに割り当てることができる典型的な役割の例と、このプロジェクトにおける各役割の典型的な担当範囲を示します。

Exchange 管理者: Exchange 管理者はパブリックフォルダストアの管理を担当します。移行プロセスの最適な時間枠を判断するため、Exchange 管理者の視点から移行前の分析を実行する必要があります。また、Exchange 管理者は移行後の成功を確認し、新しいコンテンツが自動的に移行されていることを確認する必要があります。最後に、必要に応じて移行後のフォルダへのアクセスを禁止したり、パブリックフォルダの情報を最終的に削除したりするのはこの管理者です。

SharePoint 管理者: Sharepoint 管理者は、移行プロセスを担当し、パブリックフォルダの移行の各手順について、移行の範囲を定義します。この管理者は、移行されたコンテンツの将来の使用度合いを考慮して、ハードウェアリソースとソフトウェアリソースの計画を立てる必要もあります。

SQL 管理者: SQL 管理者は、移行プロセスで必要になる SQL サービスの品質を確保することを担当します。

パブリックフォルダ所有者: パブリックフォルダ所有者を関与させずに移行を実行することも可能ですが、所有者やエンドユーザは、自分たちの要件や期待が考慮されなかったと感じた場合、移行の最終結果に大きな不満を持つかもしれません。

プロジェクトマネージャ: プロジェクトマネージャは非常に規模が大きく長期にわたることがあるプロジェクトに取組みます。こうしたプロジェクトでは、プロジェクトマネージャはすべての関連タスクを監督し、このプロジェクトの根幹にあるプロジェクト管理フレームワークを管理する必要があります。

移行プロジェクトの最初から最後まで、これらの関係者のグループは相互に密接につながっている必要があります。

2. 移行範囲の分析

2.1 事前分析

パブリックフォルダから SharePoint に移行する必要があるすべてのコンテンツについて、おおよその全体サイズを調べます。このタスクは、Microsoft Exchange Server パブリックフォルダの DAV ベースの管理ツールである Quest MessageStats 製品などのサードパーティのレポートコンポーネントを使用することによって実現できます。

有益なレポート:

1. コンテンツのサイズ

パブリックフォルダのコンテンツのサイズによって、移行の全体的な規模が決まります。既存のパブリックフォルダ構造のサイズを合理的に見積ることが重要です。同じ情報が重複しているものや、同じ情報のレプリカを含めないでください。

MessageStats レポート

\Public Folders\Root Summary

PFDAdmin

pfdavadmin.exe -contentreport -s <サーバ名> -f <エクスポートファイル名>

2. パブリックフォルダ所有者

パブリックフォルダ所有者にはプロジェクトのことを認識させておく必要があり、これらのユーザがエンドユーザに助言を与えるチームの骨格となります。

MessageStats

\Public Folders\Folder Permissions

「Folder Name」と「Folder Path」のグループ化を解除し、「User Name」でグループ化します。これにより、所有者と対応する所有者を示したフォルダのリストを表示するレポートを生成できます。

PFDAdmin

pfdavadmin.exe -export -permissions [xml | pfdadmin | ntaccount] -s <サーバ名> -f <エクスポートファイル名>

情報をフィルタ処理し、所有するフォルダが示される所有者のリストを生成します。この目的には Excel を使用できます。

3. アイテムのクラスの分布状態

MessageStats

\Content Analysis\Public Folder Content\Item Count by Class

PFDAdmin

使用できません。

4. とても古く使用されていないフォルダ

移行は、古いデータや使われていないデータを破棄し、移行先の環境でいくらかの領域を節約するのに最適なタイミングです。

MessageStats

\Public Folders\Folder Details

たとえば、最終アクセス日と最終変更日を挿入し、アクセス日が非常に古いフォルダを検索します。この日付形式でフォルダを並替えるか、簡易フィルタ機能を使用して、アクセスされたのがずっと前であるフォルダに移動されるレポートを制限することができます。

PFDAdmin

pdfadmin.exe -contentreport -s <サーバ名> -f <エクスポートファイル名>

古くて使用されていないフォルダを見つけるため、「Newest Modification Date」フィールドに基づいてフォルダをフィルタ処理することができます。このフィールドには、最近変更されたアイテムの日付が含まれています。

5. その他

サーバのリストやコンテンツの種類など、他のレポートが重要な場合もあります。

2.2 移行範囲の定義

大まかな見積りとテストが完了したら、パブリックフォルダ構造の正確な分析を行いましょう。サイトまたはコンテンツデータベースを別個に移行するために、ルートパブリックフォルダツリーを特定のタスクに分割します。この準備が、サイトで最適なパフォーマンスを実現し、コンテンツデータベースの容量を最大限に活用する助けになります。

次に、別個に移行することになるルートフォルダを定義します。たとえば、フォルダのグループで、各フォルダが組織の特定の部門を表している場合は、各フォルダを別個のサイトに移行し、既存の情報の階層が維持されるようにする方法が有効です。

2.3 パイロット移行用のフォルダの選択

運用環境にフォルダを移行する前に、すべてが正しく動作することをテスト環境で確認する必要があります。所有者との意思伝達が簡単になるように、所有者が 1 人であるフォルダのサブツリーを選択してください。

3. 移行戦略の計画

3.1 組織内のパブリックフォルダトポロジの分析

サイトが地理的に分散されている大きな組織では、パブリックフォルダがあるサーバが世界各地のさまざまな場所に配置されていることがあります。そのような分散環境での移行を計画する場合は、いくつかのことを考慮する必要があります。

多くのレプリカがあるパブリックフォルダは 1 つの SharePoint の場所に移行される

大規模な Exchange の展開では、パフォーマンス面の要件を満たし、ワイドエリアネットワーク (WAN) のトラフィックを削減するために、組織全体にわたり、地理的に多数のサイトにある Exchange サーバにパブリックフォルダがレプリケートされる場合があります。SharePoint はコンテンツのレプリケーションと同期のサービスを提供しないため、データを格納できる場所は 1 つだけになります。分散配置したレプリカが複数あるフォルダを SharePoint サーバに移行すると、移行されたコンテンツにアクセスするユーザは各自の場所にかかわらず 1 つの場所にリダイレクトされます。これにより、WAN トラフィックが増加し、応答時間が延びる可能性があります。そのため、SharePoint への移行を計画するときには、地理的に分散されているパブリックフォルダのコンテンツの移行先になる SharePoint の場所について慎重に検討する必要があります。

地域のパブリックフォルダ

地域のパブリックフォルダとは、組織内で、1 つの場所またはサイトの内部で主に使用されるフォルダのことです。このようなフォルダは、地理的に同じサイト内に配置されている SharePoint サーバに移行することをお勧めします。こうすることで、コンテンツの移行や、移行されたパブリックフォルダコンテンツに対するユーザの要求によって発生する不要な WAN トラフィックを回避することになります。

『Planning and Designing SharePoint Products and Technology Solutions for Geographically Dispersed Sites』(英語)というホワイトペーパーに、SharePoint の分散環境を計画する場合のいくつかのヒントが紹介されています。このドキュメントは以下の場所からダウンロードできます。

<http://office.microsoft.com/search/redir.aspx?AssetID=DC101057761033&CTT=5&Origin=HA100780851033>

セキュリティのアクセス許可の移行

Quest Public Folder Migrator は、パブリックフォルダから SharePoint のサイトとリストにセキュリティのアクセス許可を移行することができます。Quest Public Folder Migrator の作成済みのアクセス許可マッピングルールは、移行元のパブリックフォルダのアクセス許可を、可能な限り厳密に SharePoint 側へ一致させることを目的としています。ただし、Exchange Server と SharePoint 2003/2007 のアクセス許可モデルの間には大きな違いがあるため、一部の移行シナリオでは、ユーザが移行元のパブリックフォルダで所有していたよりも多くのアクセス許可を付与せずに、移行されたデータに対するユーザのアクセスを保持することが技術的に不可能な場合があります。最初にテスト環境で移行プロセスをテストし、アクセス許可のマッピングによる妥協の結果を理解しておくことをお勧めします。

移行先の SharePoint サイトで最初からアクセス許可を割当てての方がずっと簡単な場合もあります。必要なアクセス許可を設定するためにはある程度の時間が必要ですが、一方では、移行先で強固なセキュリティが確保されます。ベストプラクティス(推奨される実施方法)は、個々のユーザではなくユーザグループにアクセス許可を与え、サイトグループにユーザを追加する方法です。

情報構造のマッピング

Exchange パブリックフォルダとは異なり、データ(リスト、ドキュメントライブラリ、サイト、ワークスペースなど)を構造化するために使用できるさまざまな種類のコンテナが、SharePoint の特徴となっています。既存のパブリックフォルダの構造を、どのように SharePoint にマッピングするかを検討してください。これは、フォルダを SharePoint に移行する前に、フォルダの所有者とともに決定する必要があります。Public Folder Migrator にはあらかじめ、さまざまな移行シナリオを実現する、組込みの移行ジョブが 3 種類付属しています。

- フォルダからリスト
- フォルダツリーからドキュメントライブラリ
- フォルダツリーからサイト

Public Folder Migrator のどのシナリオが実際のニーズに最適であるかを検討する必要があります。組込みの移行シナリオの詳細については、『Public Folder Migrator User's Guide』に詳しい説明があります。

パフォーマンス面の考慮事項

Microsoft 社は『WSS v2 Administrator Guide』の「Capacity Planning for Windows SharePoint Services」の章で、SharePoint 2003 について、パフォーマンス面の推奨事項を公開しています。この推奨事項では、すべての SharePoint コンテナオブジェクトについて、最適なアイテム最大数が提案されています。

サイトコレクション	データベース	50,000	サイトコレクションの数が増加するにつれて、全体のスループットが低下します。
Web サイト	Web サイト	2,000	特定の Web サイトのサブサイト数が 2,000 を超える場合、サイトを列挙するインターフェイスが正しく機能しません。
Web サイト	サイトコレクション	250,000	サブサイトを入れ子にすることで、合計数が非常に多い Web サイトを作成することができます。たとえば、それぞれが 1,000 のサブサイトを持つサイトが 100 あれば、100,100 の Web サイトになります。
ドキュメント	フォルダ	2,000	フォルダ内にあるドキュメントを列挙するインターフェイスは、1,000 を超えるエントリがあると正しく機能しません。
ドキュメント	ライブラリ	200 万	フォルダを入れ子にすることで、非常に大きなドキュメントライブラリを作成することができます。
セキュリティプリンシパル	Web サイト	2,000	アクセス制御リストのサイズは、数千のセキュリティプリンシパル（つまり、その Web サイト内のユーザとグループ）までに制限されています。
ユーザ	Web サイト	200 万	個々のユーザを使用する代わりに、Microsoft Windows のセキュリティグループを使用してセキュリティを管理すれば、Web サイトに数百万のユーザを追加できます。
アイテム	リスト	2,000	リストアイテムを列挙するインターフェイスは、アイテム数が数千を超えると正しく機能しません。
Web パーツ	ページ	100	Web パーツの数が 100 より多いページの表示は遅くなります。
Web パーツの個人用設定	ページ	10,000	ユーザの個人用設定の数が数千より多いページの表示は遅くなります。
リスト	Web サイト	2,000	Web サイト内のリストとライブラリを列挙するインターフェイスは、エントリ数が数千を超えると正しく機能しません。
ドキュメントのサイズ	ファイル	50 MB	ファイル保存のパフォーマンスはファイルサイズが拡大するほど低下します。既定の最大値は 50 MB（メガバイト）です。最大値はシステムによって決定されますが、Windows SharePoint Services Service Pack 1 を適用済みの場合は 2 GB（ギガバイト）（2,047 MB）までの任意の値に変更することができます。詳細については、『 Installing and Using Service Packs for Windows SharePoint Services 』の「Configuring Large File Support」（英語）を参照してください。

実際の移行先環境を設計するときには、これらの推奨事項を考慮に入れてください。より高いパフォーマンスのためには、パブリックフォルダツリーの一部を分割し、それらを SharePoint 上の別のコンテンツデータベースに移行することも検討してください。

3.2 必要なアクセス許可が設定されていることの確認

Quest Public Folder Migrator でパブリックフォルダのデータを SharePoint に移行するには、この製品が使用するアカウントに、必要な Exchange および SharePoint のアクセス許可が付与されていることを確認する必要があります。必要なアクセス許可の詳細については、『Quest Public Folder Migrator for SharePoint User's Guide』を参照してください。

特に、SharePoint コンテンツデータベースに対する所有者のアクセス権を設定する必要があります。コンテンツデータベースの名前は、以下のどちらかの方法を使って確認できます。

1. **SharePoint サーバの全体管理 Web サイトより:** SharePoint サーバの全体管理サイトを開き、[仮想サーバ設定の構成]に移動して目的の仮想サーバをクリックし、[コンテンツ データベースの管理]リンクを開きます。
2. **Quest Site Administrator for SharePoint より:** サーバツリーで目的の SharePoint 仮想サーバを右クリックし、[仮想サーバのタスク]、[仮想サーバの設定]、[コンテンツ データベースの管理]の順に選択します。

3.3 移行に関する問題

パブリックフォルダを SharePoint に移行するときには、潜在的な問題が多く存在します。問題を回避するために、それらの問題について検討し、あらかじめ作業をする必要があります。発生する可能性がある問題を移行の前に特定して解決しておけば、より円滑な移行を実現できます。

URL パス

SharePoint では、使用できるドキュメントの URL パスの深さに限度があります。255 文字より長い URL は Windows SharePoint Services ではサポートされていません。これは、URL とその説明の文字数に対する制限であることに注意してください。移行されるアイテムの URL パスがこの制限を超えないことを確認してください。移行中、それらのフォルダやファイルは Public Folder Migrator によって自動的に除外されます。

カスタムのサイトテンプレートとサイト定義

Public Folder Migrator では、チーム Web サイト (STS) 定義と会議ワークスペース (MPS) 定義に基づく既定のサイト定義のみがサポートされます。Public Folder Migrator はカスタムサイト定義をサポートしません。そのような定義のサポートを Public Folder Migrator に追加したい場合は、Quest テクニカルサポートまで連絡してください。

カスタムクラスのフォルダアイテム

Public Folder Migrator は標準の状態では、IPF.Note や IPF.Contact などの、パブリックフォルダアイテムの既定のクラスのみをサポートしています。カスタムクラスのアイテムのサポートを追加するには、Quest テクニカルサポートまで連絡してください。

パブリックフォルダアイテムのカスタムプロパティ

Public Folder Migrator には定義済みのマッピングルールが付属していますが、これらは既定のパブリックフォルダアイテムのプロパティを SharePoint リスト内の列にマッピングするだけです。必要に応じてマッピングルールを変更し、カスタムアイテムのプロパティの SharePoint への移行をサポートすることができます。支援が必要な場合は、Quest テクニカルサポートまで連絡してください。

移行後のアイテムの変更

Public Folder Migrator は、移行ジョブの完了後に変更が行われた、移行元のパブリックフォルダアイテムに対する変更を同期しません。移行元のフォルダに表示されたアイテムのみが SharePoint に同期されます。

サポートされないパブリックフォルダの機能

Public Folder Migrator は、パブリックフォルダの機能の一部を SharePoint に移行することができません。これは、SharePoint で類似した機能が提供されていないためです。これらの機能には以下のものが含まれます。

1. パブリックフォルダのモデレート
2. パブリックフォルダのフォーム
3. パブリックフォルダのワークフローアプリケーション
4. ルール
5. 購読

これらのパブリックフォルダの機能が必要な場合は、該当するフォルダを移行から除外することを検討してください。

データベースの拡張制限

SQL データベース管理者はデータベースの拡張に制限を設定できます。完全な移行を進めることができるように、十分大きな値が設定されていることを確認してください。制限を超えると、移行を正常に続行できなくなります。

サポートされない文字

Windows SharePoint Services ではタブ文字と複数のピリオドに加えて、以下の文字を使用することができません。

∧:*?"<>|#{}%&~

これらの文字はすべて、アイテム名またはフォルダ名の中では使用できます（:（コロン）を除く）。移行元のパブリックフォルダストアのファイル、フォルダ、または URL の名前にこれらの文字のいずれかが含まれていると、その文字はアンダースコア（_）で置換されます。複数のピリオドは 1 つのピリオドで置換されます。名前の変更によって競合が発生する場合は、ファイルやフォルダの名前に追加の数字が付加されます。この問題についても、より円滑に移行が完了するように、移行中にできるだけこのようなファイルを見つけ出してください。

3.4 データの移行方法の表

パラメータ	移行前	移行後
特殊文字を含むアイテムまたはフォルダ	∧:*?"<> #{}%&~またはタブ文字を含む	特殊文字はすべて“_”で置換されます
フォルダまたはアイテムのパス	255 文字より多い文字で構成されている	移行されません
フォルダのルールと購読、アプリケーションとフォーム		スキップされます
カスタムメッセージクラスのアイテム		移行されません
カスタムアイテムのプロパティ		移行されません ¹
移行の完了後に変更されたアイテムと新規アイテム		新規アイテムのみ移行されます
特殊文字を含むアイテムまたはフォルダ	複数のピリオド	1 つのピリオドに変更されます

1 ただし、プロパティのマッピングルールを変更する可能性があります。PF Migrator には、アイテムのプロパティのマッピングと、特殊な SharePoint リストテンプレートの定義についてマッピングルールを定義する一連の XML ファイルがあります。

4. 環境の準備

4.1 ハードウェアとソフトウェアの準備

SQL Server

算出したおおよその見積りに基づいて、使用するハードウェアで、移行されるデータを収容できることを確認してください。データが格納される予定の SQL サーバで、必要な容量が用意されていることと、パフォーマンスの向上のために必要な領域があることを確認します。詳細については、SharePoint Services の管理者用のガイドで、容量計画についてのセクションを参照してください。

バックアップと保守

運用環境への移行では、通常、大量のデータが移動されることとなります。従って、移行は通常、ネットワークのピーク時間外に実行することが推奨されます。このような時間帯は通常、夜間または週末になります。しかし、Exchange サーバなどのアプリケーションのバックアップや保守のタスクは、夜間または週末に予定されている場合が多いでしょう。サービスの品質を保証する契約を結んでいる企業では状況が異なりますが、多くの管理者はこの状況に対応できるスケジュールを作成する必要があります。Exchange サーバや他のアプリケーションに追加の負荷を掛けずに移行を実行できるように、移行タスクと保守タスクを別個に実施することを 1 つの方法としてお勧めします。

移行タスクを実行するサーバでの MSMQ

Public Folder Migrator は MSMQ (Microsoft メッセージキュー) を使用して、移行元から移行先にメッセージを転送します。既定では、Windows OS はこれらのキューのメッセージを system32 フォルダに格納します。通常、サーバ上のシステムディスクのパーティションはあまり大きくないため、移行プロセス中、このパーティションで使用可能なディスク領域が、大きなドキュメントによって大幅に減らされる可能性があります。また、システムパーティションが低速なデバイス (IDE など) に割当てられている場合は、高速なハードドライブを使用し、システムパーティションでディスク領域不足が発生しないようにして移行プロセスを高速化するため、MSMQ のパスを変更することも検討してください。

ウィルス対策ソフトウェア

移行はバックエンドの SQL 側で実行され、SharePoint のウィルス対策ソフトウェアは一般に SharePoint API を通して動作します。このため、移行によってウィルス対策ソフトウェアとの競合は発生しないはずですが、移行中はウィルス対策をオフにすることをお勧めします。移行が完了したら、ウィルス対策を再度有効にして、移行されたコンテンツのウィルスをスキャンすることができます。

4.2 パイロット環境の準備

常に、実際の運用環境にできるだけ似ているテスト環境を準備するようにしてください。そのようにすれば、これから行う、運用サーバへの移行のシミュレーションがより現実的なものになります。

パイロット環境用に選択したフォルダツリーを選び、エクスポートします。たとえば Microsoft Outlook で、PST (個人用領域) ファイルへのエクスポートオプションを使用します。その他に、実際の環境に適した任意のツールを使用することもできます。PST ファイルを使用してパブリックフォルダのコンテンツをエクスポートする場合、それらのフォルダに関連付けられているアクセス許可は失われます。アクセス許可は、たとえば PFDAVAdmin ツールを使用することで、パイロット環境内に復元できます。

最後に、エクスポートされたツリーをパイロット環境の Exchange サーバにインポートしてください。

5. 移行の実行

5.1 手順 1—移行ジョブの作成

移行ジョブウィザードを使用して、新しい移行ジョブを作成します。移行スケジュールウィザードを使用すると、無効にしたジョブをまず作成し、その後でスケジュールを編集することができます。移行エージェントのスケジュールをピーク時間外に設定し、運用 Exchange サーバに対する負荷を最小限にします。移行の準備ができたなら、Public Folder Migrator コンソールで移行ジョブを有効にします。

移行ジョブでは、ユーザが円滑に SharePoint に切替えられるように、ユーザをリダイレクトするオプションを有効にすることをお勧めします。ユーザが SharePoint にリダイレクトされる前に移行結果を分析し、他の移行後作業をいくつか実行できるように、切替日を選択すると便利な場合もあります。

5.2 手順 2—移行結果の分析

フォルダの所有者と協力して、コンテンツが正しい場所に適切に移行されたことを確認する必要があります。ユーザが引続きパブリックフォルダに投稿する可能性がある新しいコンテンツが、SharePoint に移行されていることを確認します。

5.3 手順 3—特別なパブリックフォルダの機能の移行

移行することができないパブリックフォルダの専用機能の一部は、SharePoint で使用できるように手動でエミュレートすることができます。

購読とモデレートフォルダ

購読とモデレートフォルダは、通知と承認に変換できます。

最初に、変換対象にするパブリックフォルダのすべてのモデレータと購読側のリストを取得する必要があります。次に、移行先の SharePoint リストまたはドキュメントライブラリのプロパティを以下のように変更してください。

1. ドキュメントライブラリまたはリストの承認をオンにします。
2. モデレータは「リストの管理」の権限を持っている必要があるため、対応するユーザまたはユーザグループにこの権限を追加します。



PF Migrator を使ってアクセス許可を移行する場合、この役割は以下の場合に割当てられます。

1. フォルダ所有者に対して
2. 「アイテムの編集-すべて」の権限を持っているユーザに対して
3. 「アイテムの削除-すべて」の権限を持っているユーザに対して

アクセス許可のマッピングの詳細については、『Public Folder Migrator – User Guide』を参照してください。

3. 新しいアイテムや他の変更について通知を受信するためには、ドキュメントライブラリまたはリストに対して各自が通知を作成する必要があることをユーザに知らせます。



この目的のためには Quest Site Administrator を使用できます。この製品はサイトポリシーを特徴としており、これを利用すると、上記のようなサイト設定を必要なサイトに簡単に伝達できます。

Outlook フォーム

パブリックフォルダのフォーム機能は、Microsoft InfoPath のフォームと SharePoint のフォームライブラリで部分的にエミュレートできます。Exchange 2007 と SharePoint 2007 には、ビジネスワークフローとアプリケーションを構築するための、より強力な機能が導入されます。

メールが有効なフォルダ

以下のことが可能です。

1. メールが有効なフォルダに対して移行ジョブを有効にしたままにする
2. メールが有効なパブリックフォルダから古いコンテンツをすべて削除するように Exchange のメールボックスマネージャを構成する

コンテンツが重複しないように、移行したパブリックフォルダに送信されたメッセージはすべて移行先の SharePoint の場所に転送されます。

ルール

一部のルールは SharePoint のユーザ設定のビューに変換できます。ユーザ設定のビューは、ドキュメントライブラリやリストのコンテンツをフィルタ処理する機能以外に、リストまたはライブラリのコンテンツのグループ化、並替え、合計数のカウント、視覚表現の変更を行うために使用できます。フォルダルールのセットには、通知と承認に変換できるものもあります。

6. 移行後の作業

6.1 パブリックフォルダのリダイレクト

パブリックフォルダが Microsoft Outlook 内で、ユーザを適切な SharePoint サイトにリダイレクトしていることを確認してください。Outlook ユーザは、新しい SharePoint サイトに直接アクセスして、Internet Explorer®を使っているようにサイトを操作できる必要があります。

6.2 Outlook Web Access

ユーザのリダイレクトは Microsoft Outlook のみに対して機能し、Outlook Web Access (OWA) には機能しないため、ユーザは OWA を使用して、移行されたパブリックフォルダのデータにアクセスし、変更することができます。ユーザが OWA を使ってパブリックフォルダに投稿する新しいアイテムはすべて、対応する移行ジョブが有効である限り、移行され続けることに注意してください。ただし、移行されたパブリックフォルダの使用が停止された後は、OWA を使用するユーザはコンテンツにアクセスできなくなります。移行が完了したときに移行済みのコンテンツにアクセスする方法を OWA ユーザに教える必要があります。これらの目的のために、企業ネットワークの外部からインターネット経由で SharePoint サイトにアクセスできるようにすることが可能です。これはたとえば、ISA (Internet Security and Acceleration) サーバの Web サーバ公開によって安全に行えます。パブリックフォルダの仮想ディレクトリに対する要求を、IIS (インターネットインフォメーションサービス) サーバのパブリック仮想ディレクトリのプロパティを使用して SharePoint サイトにリダイレクトすることを検討できます。どの場合にも、SharePoint サイトをエクストラネットに公開するか、ユーザに VPN(仮想プライベートネットワーク)を強制して SharePoint サーバにアクセスするネットワークに入るようにする必要があります。OWA のユーザインターフェイスで、パブリックフォルダを非表示にすることができます。それには、Microsoft OWA Web Administration ツールを使用します。

6.3 パブリックフォルダの使用停止

移行したパブリックフォルダの使用を停止するのは、すべての関係者が移行プロジェクトの結果に満足してからにする必要があります。移行したフォルダのデータは、何かの理由で再度必要になる場合に備えて、適切なバックアップソリューションを使って保管してください。

6.4 SharePoint の管理

移行先の SharePoint 環境について実行可能な管理手法が決定され、それが実施されるまで、移行プロジェクトが成功したと考えてはいけません。Quest Site Administrator for SharePoint などのサードパーティのツールを使用して、新しいコラボレーションプラットフォームを確実に管理します。

結論

どのような移行の場合でも、適切な事前の計画や事後の管理が欠けていると、移行が困難で失敗する可能性があります。多くの場合、移行に利用されるソフトウェアツールに問題があるのではなく、移行についての適切な理解と計画が欠けていたことが困難や失敗の理由になっています。Public Folder Migrator for SharePoint のような Quest Software 社のツールを利用して移行についての理解と計画を対にして、事前と事後の総合的な移行計画にすれば、リソース面の重荷を緩和し、手動での移行に伴うエラーのリスクを軽減することができます。Public Folder Migrator は、フォルダ階層を維持し、データの整合性と可用性を保証すると同時に、一括での移行を効率的に管理します。データ資産が SharePoint Server に移動されると、情報の共有とドキュメントでのコラボレーションを強化するために SharePoint Server の高度な機能のメリットを享受でき、個人とチームの生産性を高めることができます。

筆者について

Sergey GoncharenkoはExchangeとSharePointのソリューションを専門とするクエスト・ソフトウェアのソフトウェアアナリストです。クエスト・ソフトウェアに入社する前は米国のWebホスティング企業であるIntermedia.NET社でサポートコンサルタントを務めていました。この企業も、ExchangeホスティングやSharePointホスティングなどのサービスを提供しています。ロシアのサンクトペテルブルク国立大学から機械学と応用数学の修士号を受けています。

QUEST SOFTWARE, INC. について

クエスト・ソフトウェア (Quest Software, Inc.) は、アプリケーション、データベース、Windows インフラストラクチャによるパフォーマンスおよび生産性の向上を支援する革新的な製品を提供しています。IT 業務に対する深い専門知識、そして最善を追求する絶え間ない努力によって、クエスト・ソフトウェアは全世界 18,000 以上の顧客企業の IT ソリューションに対する高い期待に応えています。クエスト・ソフトウェアの Windows 管理ソリューションは、Active Directory、Exchange、Windows の利用を簡略化し、自動化とセキュリティ保護を提供するほか、管理下の環境に Unix や Linux を統合します。クエスト・ソフトウェアは、全世界にオフィスを展開しています。詳細については、www.quest.com を参照してください。

クエスト・ソフトウェア (Quest Software, Inc.) へのお問合せ

電話: 949.754.8000 (米国およびカナダ)
電子メール: info@quest.com
住所: Quest Software, Inc.
ワールドワイド本社
5 Polaris Way
Aliso Viejo, CA 92656
USA
Web サイト www.quest.com

各地域および海外の所在地情報については、本社サイトを参照してください。

クエスト・ソフトウェア株式会社 (Quest Software K.K.) へのお問合わせ

電話: 03-5771-8620
電子メール: japansales@quest.com
住所: 〒107-0062
東京都港区南青山 3-1-3
大手町建物青山ビル 8F
Web サイト: <http://www.quest.com/japan/>

クエストサポートへのお問合せ

クエストサポートは、Quest 製品の試用版をお持ちのお客様、または製品版を購入し、有効な保守契約書をお持ちのお客様がご利用いただけます。クエストサポートは、弊社の Web セルフサービスである SupportLink で、24 時間体制のサービスを提供しています。SupportLink (<http://www.quest.com/japan/support/>) を参照してください。

SupportLink では、以下のことが行うことができます。

- 数千のソリューション（ナレッジベースの記事/文書）をすばやく検索できます。
- パッチとアップグレードをダウンロードできます。
- サポートエンジニアにサポートを依頼できます。
- ユーザ事例をログに記録および更新し、その状況をチェックできます。

サポートプログラム、オンラインサービス、連絡先情報、およびポリシーと手順についての詳細な説明については、『Global Support Guide』を参照してください。このガイドは以下の場所から入手できます：[http://www.quest.com/japan/support/Global Support Guide 2.5\(J\).pdf](http://www.quest.com/japan/support/Global%20Support%20Guide%202.5(J).pdf)